

「人」の品質こそが、CSRの品質

『ITが人と社会にできること』——これは、日本ユニシスグループのCSR活動を語る時に欠かせない言葉です。IT、すなわち情報技術は、インターネットの普及に代表されるように、今や私たちの生活に不可欠な存在となっています。私たち日本ユニシスグループは、企業や公共分野などの幅広いお客さまに対し、ITを活用したソリューションやサービスによって“業務の効率化”や“利便性の向上”、“新たなビジネスの創出”など、多くの価値を提供してきました。そしてこれこそが、私たちにとっての「社会的責任」を果たすことであると考えています。

お客さまに価値あるソリューションやサービスを提供していくためには、情報技術に関する知識や経験を蓄積するとともに、市場の動向や、お客さまの業務プロセスを隅々まで熟知しながら、情報システムの構築を進めていくことが求められます。そして、期待される「品質」を保証するためには、確実にその検証を行うことが必要です。

それでは期待される品質とは何か、突き詰めていけば、それは「人」の品質にほかなりません。ITとは、言葉の通り“情報”と“技術”を指しますが、お客さまとビジョンやニーズを共有し、一流のソリューションやサービスを提供するのは、最終的にこの「人」なのです。日本ユニシスグループの社員が“一流”になることが、お客さまに満足していただき、信頼をしていただく源泉となっているのです。

“一流”とは、豊富な知識や高い技術力を持つことは当然のこととして、あたりまえのこと、言い換えれば、社会人としての常識をどのような状況においてもきちんと実践できるということです。目標や目的を達成することはもちろん重要ですが、ビジネスの中で問題意識を持ったことをそのままにせず、何をどう改善していくべきかを常に自らに問い、そのために行動できること、あたりまえのことを自ら主体的に実践していけること、それが“一流”の条件であり、CSRの基本であると私は考えます。

一方、経営者としての最大の責務は、先端技術を修得し、お客さまが期待している以上の素晴らしいソリューションやサービスを提供できるような「人」を育てていくことであるとと考えています。そのために、日本ユニシスグループで



は、人事制度や、育児関連制度を含めた両立支援制度の見直しを図るなど、働きやすい職場環境の整備を進めてきました。また、技術力の向上を図ることを目的とした研修制度も充実させてきました。このような改革によって、社員一人ひとりが自らのモチベーションを高め、お客さまに満足していただき信頼される、日本ユニシスグループの一員になってくれるものと確信しています。

「日本ユニシスグループCSR報告書2007」では、こうしたあたりまえのことに正面から取り組もうとしている日本ユニシスグループの方針、具体的な取り組みを「なるべく多くの人に分かりやすく、読みやすく」を目標に編集しました。本報告書を通じて、読者のみなさまに少しでも私たちの活動への理解を深めていただくとともに、さまざまなご意見を頂戴することで、日本ユニシスグループのCSR活動がより良いものとなり、ひいてはお互いが持続的に成長し合える関係を構築できれば、これほど有意義なことはありません。その第一歩として、読者のみなさまからの忌憚のないご意見、ご指摘を頂戴できれば幸いです。

日本ユニシス株式会社
代表取締役社長

榎井 勝人